

研究機関名：東北大学病院

受付番号： 2014-1-336
研究課題名 十二指腸非乳頭部神経内分泌腫瘍の臨床病理学的特徴と転移危険因子に関する多施設共同遡及的研究
研究期間 西暦 2014年 9月（倫理委員会承認後）～ 2018年 8月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 十二指腸 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録 ）
上記材料の採取期間 西暦 1992年 5月～ 2014年 2月
意義、目的 十二指腸神経内分泌腫瘍(NET)は稀な腫瘍であり、十二指腸乳頭部 NET では解剖学的理由、転移のリスクなどから外科手術を推奨する報告が多い。一方で、十二指腸非乳頭部 NET では現在では病変径 10mm 以下、粘膜下層までの浸潤などの基準で内視鏡治療を推奨する報告が多い。しかし、内視鏡治療を選択した際の追加治療基準については未だに一定の見解がない。そこで、十二指腸非乳頭部 NET の転移危険因子を明らかにすることで内視鏡治療を選択した際の追加治療基準を検討することを目的とする。
方法 1992年5月から2014年2月までの間に当院及び当院関連医療機関 10 施設にて診断・治療された十二指腸非乳頭部 NET を対象とし、診療録より年齢、性別、病変部位、病変径、治療法、リンパ節転移・遠隔転移の有無、経過観察期間、予後を検索する。また、病理組織所見を 1 名の病理医が改めて見直し、以下の項目について免疫染色も含めて病理組織学的に再評価し、転移危険因子を検討する。 ① 脈管侵襲 ②WHO grade 分類 ③深達度 ④ホルモン産生(ガストリン、ソマトスタチン、セロトニン) 尚、使用するデータは匿名化して研究する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院消化器内科 実施責任者 小池 智幸 事務局 八田 和久 住所：仙台市青葉区星陵町 1-1 TEL: 022-717-7171